

衆議院外務委員会ニュース

平成 22.3.12 第 174 回国会第 4 号

3月12日(金) 第4回の委員会が開かれました。

1 国際情勢に関する件

- ・いわゆる「密約」問題について、岡田外務大臣から説明を聴取しました。

2 在外公館の名称及び位置並びに在外公館に勤務する外務公務員の給与に関する法律の一部を改正する法律案(内閣提出第12号)

- ・岡田外務大臣、武正外務副大臣及び舟山農林水産大臣政務官に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
(賛成 - 民主、自民、公明、共産、社民)
- ・小宮山泰子君外4名(民主、自民、公明、共産、社民)から提出された附帯決議案について、小野寺五典君(自民)から趣旨説明を聴取し、採決を行った結果、全会一致をもってこれを付することに決しました。
(賛成 - 民主、自民、公明、共産、社民)

(質疑者及び主な質疑内容)

空本 誠喜君(民主)

- ・在外公館の役割・機能や設置目的をよりいっそう明確化すべきではないか。
- ・在外公館を設置・廃止する際には、どのような基準をもとに判断が下されるのか。
- ・大西洋・地中海のクロマグロを絶滅危惧種に指定し、国際取引を禁止しようとする動きに対し、国益の観点からの外交努力の現状について伺いたい。

萩原 仁君(民主)

- ・在勤手当の必要性について伺いたい。
- ・治安状況等が相当異なる韓国とジャマイカの大使に支給される在勤基本手当基準額は同額であるが、このような基準額の設定は妥当なのか。
- ・各種の在勤手当については、外交上の必要性を踏まえつつも、細かく見直していくことが必要ではないか。

浜本 宏君(民主)

- ・岡田外務大臣は、大臣就任にあたり、在外公館職員に向けて訓示等を行ったのか。
- ・ハイチ地震のような災害時、在外公館の不可侵性はどのようにして守られるのか。
- ・外国要人等の接遇の際、日本の国産ワインも使用するべきではないか。

平沢 勝栄君(自民)

- ・過去数年間における在外公館の新設状況について伺いたい。
- ・平成22年度予算案において、前政権下の概算要求には盛り込まれていた在外公館の新設が、現政権下の概算要求では取り下げられたのはなぜか。
- ・在勤手当については、職務にふさわしいだけの配慮がなされるべきであるが、今回の在勤手当予算等にはその点が勘案されているのか。

河野 太郎君(自民)

- ・我が国政府から国際機関に出向している職員について、政府が国際機関における本給に上乘せる形で手当を支給しているのは国際公務員の中立性の観点からもおかしいのではないか。
- ・ミャンマー難民に対する第三国定住プログラムにおいて、5家族を受け入れるための費用として計上されている1億円以上の予算額は見直すべきではないか。
- ・日米間の密約について、岡田外務大臣が外務省の内部調査とした理由について、岡田外務大臣に伺いたい。

赤松 正雄君(公明)

- ・大西洋・地中海のクロマグロの絶滅危惧種指定の是非が議論されるワシントン条約締約国会議に向けた動向について伺いたい。
- ・クロマグロに関する我が国の立場に国際的な支持を得

- るため、在外公館に何らかの指示が下されたのか。
- ・今後の大使館新設に関し、岡田外務大臣はどのような戦略を持っているのか。

笠井 亮君（共産）

- ・在外公館は、日本人学校の運営等、在留邦人に対する

- 支援を充実させるべきではないか。
- ・核兵器廃絶が必要な理由について、岡田外務大臣の認識を伺いたい。
- ・被爆国である我が国が、核使用の抑止手段としての核保有を容認することは妥当なのか。